

私のすすめるこの1冊

梶原 裕二（理学科 教授）

興亡の世界史『ケルトの水脈』（講談社学術文庫）

原 聖（著）

皆さんは COVID-19 でステイ・ホームの休日、どのように時間を過ごしていましたか。料理や部屋の整理整頓、それぞれ好きなことができる機会ではなかったでしょうか。私は生物教育、哺乳類の実験発生学が専門ですが、読書が好きで、今回紹介する歴史の本を手にとりました。これは「興亡の世界史」というシリーズの中の一冊で、他に「東インド会社とアジアの海」「近代ヨーロッパの覇権」「大英帝国という経験」なども昨年から面白く読みました。「東インド会社とアジアの海」では、高校の世界史の時間で、何気なくイギリスやオランダの東インド会社を教科書の字句として記憶していましたが、ポルトガルによる東インドへの進出経過とアジアを舞台としたダイナミックな貿易活動の記述を読み、改めて世界を俯瞰する航海時代を学んだ気がしました。「大英帝国という経験」では、イギリスのブリストル市の中心地にあるエドワード・コルストル像、市が誇る慈善家で市民ホールや幹線道路にも名前が残る名士の像が、今年、black lives matter 運動の際、奴隷商人の負の側面(pp. 137-182)から、エイボン川に投げ込まれるニュースの背景を知ることができました。

さて、「ケルトの水脈」は、ヨーロッパ文化の底流、ローマとキリスト教が広まる前からのケルト文化の紀元前から現代に至る歴史を解説したものです。冒頭(pp. 13-27)、「最初のヨーロッパ人、ケルト人」と題する大展覧会が1991年に開催され、古代ケルト人の文化的な豊かさを訴え

る機会となったことや、ヨーロッパが、時代を遡ると一方ではローマ文明とキリスト教に、もう一方ではケルト人に行きつくと記述されています。1989年にベルリンの壁が崩壊した後、旧東欧諸国を含めたヨーロッパの多くの国々がこの展覧会に参加し、EUの誕生をひかえ、欧州の大同団結に向う時代の中で、ケルト人はこのヨーロッパの動きを歴史的に支援する意味合いがあったと紹介されています。どうでしょうか。読みたくありませんか。

1980年代後半、日本でもケルト文化再評価の流れは同じくしてあり、1989年イギリスBBC作成の「幻の民・ケルト人」がNHKで放送され、アイルランドの歌手エンヤのテーマ音楽共に話題となったそうです。私の経験として、20年ほど前に卒論生から、エンヤいいですよと勧められたことを懐かしく思い出しました。また、ブルターニュ地方やイギリスの巨石文化も触れられており、観光で訪れたイギリスのストーンヘンジが私の中で位置づけられました。ウェールズ地方の子音の多い地名、スコットランド、コーンウォール地方、フランスのブルターニュ地方、アイルランドの間に、歴史上長い人や文化の交流や繋がりを理解する良い機会になりました。また、ウェールズ地方の妖精の話の背景を理解する機会にもなりました。

日本も昔からの風習や伝承、民話や昔話、妖怪を大切に残していますので、文化の底流という見方も面白いと思います。

第2回教育展 — 京都教育大学所蔵 古紙幣の世界 —
「おかね」の歴史とデザイン

銀十匁札版木（尼崎市指定文化財・尼崎市立歴史博物館所蔵）は12/9(水)まで現物を展示しています。

第2回教育展「おかね」の歴史とデザイン—京都教育大学所蔵古紙幣の世界—

教育資料館で所蔵している江戸時代から明治初期にかけての古紙幣や関係資料を展示し、前近代の通貨の流通事情や、さまざまなデザインに込められた意味などを解き明かします。

◆教育資料館のホームページにて デジタル展覧会としてご覧いただけます！

【開催期間】令和2年11月19日（木）より順次公開しています。



解説パンフレットや展示物の写真、会場の様子やミュージアムトークなどのコンテンツを掲載予定です。どなたでもご覧いただけますので、ぜひお楽しみください。

←※こちらのQRコードから専用ページへ直接アクセス出来ます

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/exhibition/2020/10/2.html>



本展は京都教育大学附属図書館 北館 1階企画展示室にて11/19(木)から12/25(金)まで展示しています。京都教育大学の在学生・教職員の方は、附属図書館の開館時間に準じて観覧可能です。

【主催】京都教育大学教育資料館
(まなびの森ミュージアム)

【共催】京都教育大学附属図書館

【協力・資料提供】尼崎市立歴史博物館



ぜひ、ご観覧ください。



＜一般来場の方へのお願い＞

附属図書館は現在新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般利用者の方（学外者、卒業生含む）の閲覧利用をお断りしております。今年はぜひWebコンテンツでお楽しみください。

保育士試験対策コーナー

11月19日（木）～12月12日（土）
令和2年度「言語表現に関する技術」の実技試験で課題となっている4つの昔話について、いろいろな語り口や挿絵の絵本・紙芝居を集めました！

☆貸出できます☆



南館1階 児童書コーナー



新型コロナウイルスの感染防止対策としての換気について

附属図書館では感染症対策のため、全館で窓をあけて換気をおこなっております。

暖房がはっていますが、風が通りやすいところもございますので、暖かい服装でご利用ください。

丸善電子書籍（Maruzen eBook Library）
試読サービス12月11日（金）まで

附属図書館より、丸善雄松堂の電子書籍 Maruzen eBook Library の試読サービスをご案内します。
○Maruzen eBook Libraryのうち約60,000点の学術書などにアクセス可能
○1タイトル1回5分間読むことができます（印刷・ダウンロード不可）
○もっと読みたい電子書籍にリクエストを送れる機能付き
○自宅など学外からでもアクセスできて便利

※10月から開始で残り少なくなってきました。図書館に未所蔵の学術書の中を読むことができるチャンスです。卒論・レポートにどんどんご利用ください。

URL: <https://elib.maruzen.co.jp/>

京都教育大学 それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第23回の報告

YouTubeで公開されました（現在も視聴できますのでどうぞ！）

<https://www.youtube.com/watch?v=mv9zbWrD-2M>

【講師】児玉 一宏（英文学科 教授）

【テーマ】ことばの科学ー英文法の不思議発見

第24回のお知らせ

【日時】12月YouTube 公開予定

【場所】今回はYouTube 公開のみです

【講師】延原 理恵（家政科）

【テーマ】居は気を移すー環境が変われば〇〇が変わる

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



ブックレポート応援コーナー（報告）

テーマは「真面目に勉強」はカッコ悪くない！一歩先を行きたい京教生のためのおすすめ本！
教育学科必修科目「教育の理念と歴史」との協同事業としてブックレポートを作成するための図書展示をおこない、70件以上の利用がありました。



児童書コーナー（南館1階）

幼児教育科主催
えほんの moi

学生による絵本のよみきかせ
★しばらくお休みです。

今月の絵本カード （学生作）

『おふとん かけたら』
作・絵：かがくい ひろし
出版社：ブロンズ新社



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

冬季休業に伴う長期貸出について

学部生：12月8日（火）～12月23日（水）

院生・教職員：11月24日（火）～12月9日（水）

【返却期限日】2021年1月8日（金）

リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！リクエストや投票にどんどん参加してください！

12月の投票期間は

12月1日（火）～12月15日（火）

※結果によっては購入できないこともあります。

※学習研究目的のものは原則として購入しています。

学修相談カウンター

理科教育専修、数学教育専修の先輩たちがいろいろな質問に対応してくれます。免許を2つ以上取りたい、初等・中等算数科教育理科の授業づくりなど色々相談してみてください。



【場所】附属図書館北館2階ラーニング commons 廊下側

【日時】月～金

15:00～17:00 または 16:30～18:30

※実施時間や相談可能な科目は日によって異なります。

イベント案内

京教自然の写真展：e-pro 京教自然愛好家の集い Lon

【会期】11月30日（月）～12月24日（木）

【場所】西館1階ロビー

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品
（12・1月）

「雪中梅」

展示場所：図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **丸山 啓史** (発達障害学科 准教授)

近年の家庭教育政策に対する批判のあり方をめぐる問題 —親の「第一義的責任」の位置づけに着目して—

丸山 啓史

京都教育大学紀要 2020, No. 137, pp. 13-23.

数十年前と比べると障害のある子どものための社会資源は増えていますが、障害のある子どものケアの家族依存が解消されたわけではありません。学校に行くにも、親が子どもの送り迎えをしなければならないことがあります。また、社会資源を活用するにしても、その手配は基本的に親がすることになります。そういう実態があるなかで、「子どもについての第一義的責任は親にある」と簡単に言ってしまっているの难道うか。そういう問題意識が土台にあります。

2000年代以降、子どもに関わる法律の制定・改正のなかで、親の「第一義的責任」の規定が進められてきました。2006年に「改正」された教育基本法の第10条(家庭教育)では、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」とされました。また、2016年に公表された自由民主党の家庭教育支援法案でも、家庭教育は「父母その他の保護者の第一義的責任において」行われるものとされています。

教育基本法改正や家庭教育支援法案に対する批判は多いのですが、その中心は、国家による家庭教育への介入に対する批判です。親の「第一義的責任」への関心は強くありません。しかし、近年の家庭教育政策にみられる親の責任の強調や家族主義の強化に疑問を抱く立場からすると、日本の政策における親の「第一義的責任」を許容してしまうことは問題なのです。

障害児者のケアが家族任せにされがちな現状を頭に置きながら、家庭教育政策をめぐる議論を検討しています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 137号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUER)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2020年12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

12/5推薦入試

12/22-1/4 冬季休業

2021年1月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1/5 授業再開

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.243 (2020年12月号)

発行日:2020年12月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人

京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION